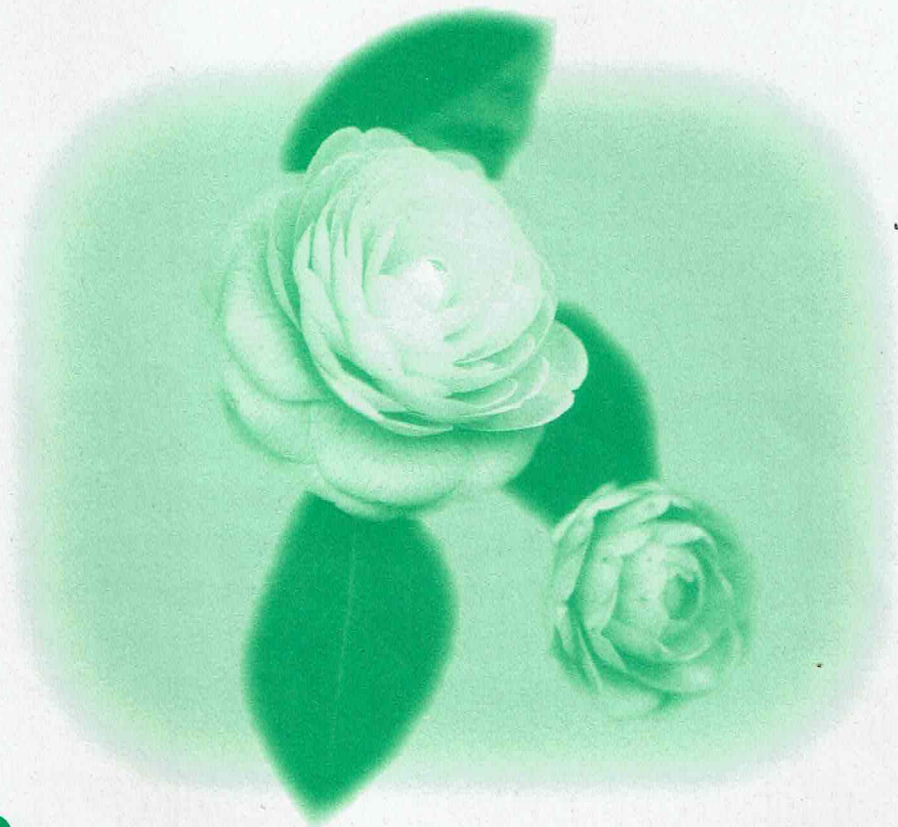


それいゆ

いなぎの女性情報誌



内 容

- いなぎの男性 (ひと)
～地域でご活躍の佐々木朗さん～
- 男女平等推進セミナーⅠ
「もう一度働きたいあなたのための～再就職準備講座～」実施報告
- 男女平等推進セミナーⅡ
「女性の活躍推進の時代へ～ポジティブ・アクション～」実施報告
- 男女平等推進センターのご案内

vol.25
2013

稲 城 市

いなぎの男性 (ひと)

今回は、稲城市若葉台在住の

さ さ き あきら
佐々木朗さんをご紹介します。

佐々木さんは、中学一年生の娘さんと二人暮らしです。仕事、家事、育児をしながら、地域活動でも活躍されています。地域活動と子育てについてお話を伺いました。



地域活動は、地域への恩返し。

仕事は、自分で会社を経営しています。建設業で会社をつくって25年くらい経ちます。自営業なので、ある程度時間を自由に使えることもあり、PTA会長などもできました。地域活動については娘がいることが大きいですね。

娘が3歳の時に妻が病気で亡くなり、それから一人で子育てしました。仕事もあり、まるっきり違う生活になったので不安でした。この先、娘との生活をやっていけるのかと。施設に入れたりしないで、何としても自分で育てたいと思い、試行錯誤して育てました。まずは仕事の取引先の人たちに事情を説明して、わかってもらうことができ、いろいろ協力してもらいました。

一番大きかったのは、地域でした。通っていた保育園の園長先生をはじめ、保護者の方々に、ものすごく支えられて、それがなければ私一人で娘を育てていくことはできなかったかもしれないと思います。まわりに助けられて支えられて、娘も中学生になりました。今、地域活動をしているのは地域への恩返しではないですが、地域で何かの役に立てればいいのかと思ってやっています。

娘が小さいうちは地域に関わり、娘と一緒にこの地域で育っていききたい。

娘が小学校二年生の時に学童クラブ父母の会会長、小学校三年生から六年生までの4年間はPTA会長をやりました。今は青少年育成地区委員会の委員長や学校支援コンシェルジュをえています。私自身、娘が小さいうちは、地域に関われるうちは関わって、娘と一緒にこの地域で育っていききたいと思っています。小学校6年間のうち5年間携わらせていただいて、娘との関わりも深くなっているし、すごく良かったと思っています。やりがいもあります。学校の子どもたちが私のことを覚えてくれます。学校に行くと子どもたちは私の名前を呼び捨てします。先生がそれに気づいて子どもたちを注意してくれますが、私は逆に親しみを感じ、子どもたちと同じ目線でいろいろなことができているのかなと思嬉しく思っています。私自身、大人になりたくなかった大人なので(笑)子どもたちと一緒に鬼ごっこしたり、廊下を走っていると先生に怒られたりします。そういうこともすごく楽しいです。娘もそういうことによって父子家庭だということをもまったく感じないで生活できているのではないのでしょうか。地域活動をすることで、地域の人に自分の顔や娘の顔を覚えてもらって、何かあるごとに気にかけていただいています。私自身も孤立しないし、みんなとつながっていて、勇気ももらいます。娘との二人の生活もすごく楽しいですが、地域活動もして、仕事とはまた違うつながりや関わりがあって、いろいろな人と出会い知り合い、私自身楽しんで地域活動をさせてもらっています。

新しく楽しい企画でみんなに来て欲しかった。

P T A活動も楽しかったです。最初、P T Aという組織はお堅いイメージでありあまり好きではありませんでした。P T Aは敷居が高くてみんな入ってこないで、せっかく自分がP T A会長になったから、変えていきたい、新しく楽しい企画でみんなに来て欲しいと思いました。子どもたちや保護者にもP T Aに関わって欲しいというか、学校に来て欲しいと思っていました。父子家庭や母子家庭、両親そろっていても、なかなか学校に足を運ばない方も多い中で、そういった人たちに足を運んでもらいたいと思いました。さらには地域の活動に参加してもらえたらという“ねらい”もありました。やはり、家の中で親が閉じこもってしまうと、必然的に子どもも外に出なくなってしまう。そうすると悪循環で、親は家の中の狭い空間で子どもと一対一になったりして、子どもにも良い環境ではないし、もっと言ってしまうと虐待だったり、そういうことにつながっていきなりする。親が地域と関わることイコール子どものためになるのではないかと思い、今までとは、ガラッと変わったP T Aにしました。親御さんが参加してくれると地域での環が広がったり、子どもは子どもで学校の中だけでなく外でも遊んだりして、私的には、そういう“ねらい”のほうが大きかったです。P T Aに参加してくれる人も多くなったり、やはり4年間やらせてもらって、さらに子どもとの関わりも深く持てました。子どもが小さいうちに、親が地域活動に関わると、そういう行事に子どもも一緒に行きますよね。そうすると子どももまわりに顔を覚えてもらったり、友達もできたりします。

子育てに悩んでいたなら、もっと地域に参加するといいかんと思う。

私は娘と一緒に遊んで地域で活動して、本当に子どもには毎日笑って生活をしてもらいたいというのがありました。やはり地域活動ってものすごく重要で、ひとり親に限らず、大人が地域に出て何かしら活動とか、何かしないと孤立してしまう。イコール子どもも「あそこの家の子は、誘ってもあまり来ないから。」とか、子ども自身も、まあ悪く言えばいじめの対象になってしまう。そこまで発展する可能性もあるので、もちろん民生委員さんとかもいるけれども、子どもを持った親御さんが育児で悩んでいる、育児や生活に悩んでいるというところまでは、なかなかたどりつけなかったりするところなので。学校に協力してもらったり、自治会の掲示板にお知らせを貼ったり、保護者会にたまに出席するお父さんお母さんに声かけしたりして、地域活動への参加を促しています。若葉台は子どもの数も家庭数も多いので、そういうことをコツコツやっていたらいいかなと思っています。子育てで悩んでいた、ふさぎこんでいるような人たち、シングルで子どもを育てているような人たちには、もっと地域に参加してみたらいいかなと思います。そうすることによって親自身も相談できる場所も増えたり、話し相手もできたりするので。先ほどから言っていますが、イコール子どももです。

無我夢中だった。ただ、絶対に娘との生活は守っていきかけた。

妻が亡くなる前は、家のことには正直関わっていませんでした。妻が亡くなってから、保育園の送り迎えから家事育児全般をやらなくてはいけなくなりました。私自身、身寄りがないので、おじいちゃんおばあちゃんもいない中で、この先どうになってしまうのかととても不安でした。

あの時は、本当に、まず妻が亡くなったというショックと、この先、子どもを抱えて父親一人でやっていけるのかという不安、あとは、子どもが毎日「ママ、ママ」とギャーギャー泣きわめいて。そういう中で、ものすごく何か、自分自身がどうにかなってしまいそう、壊れてしまいそうな感覚に

なっていたことが自分でわかりました。ただ、ここは娘のためにがんばらないといけないうふう
に思いました。どこから助けがあったというわけではありませんでしたが、自分で何とかやるしか
ないと覚悟を決めたというか。もちろん、その後まわりの人たちのサポートもありましたが、結果、
最後は自分で決めて、自分で行動しないと何も進んでいけないし、何もできないので。

あの時、どうやって乗り越えたかというのは、もう一杯いっぱい過ぎて覚えていません。日々、
子どもを保育園に送って、仕事して、帰ってきてから保育園に迎えにいったら、ごはんを食べさせて、
そういうのであまり覚えていないというのが正直なところ。気がついたら軌道に乗っていたとい
うか。まわりの方が「保育園に迎えに行けなかったら、迎えに行っておあげるよ。」と言って来て、
子どもを迎えに行って、お風呂も入れて、ごはんも食べさせてくれました。保育園の保護者の人たち
がそうやって協力してくれました。当時、私がすごく覚えているのが、保育園の園長先生が「朝、
仕事で大変なときは、うちに子どもを預けて仕事に行ってもいいから。」と言ってくださったこと。
すごく嬉しくて。もちろん本当に園長先生に子どもを預けることはしませんでした。そういったま
わりの温かさが、私たち家族を、私と娘を助けてくれて。なので、どう乗り越えたかというか無我夢中
でした。ただ、絶対に娘との生活は守っていきたく。絶対に施設に入れるようなことはしたくない
と思いました。実は、あるところに相談に行ったことがあるのですが、その担当の方が開口一番
「お父さん一人では育てられないから、児童養護施設に入れたほうが。」と言われたことがありま
した。その時にカチンときて、その一言が私に「自分で育ててみせる。」という思いにさせました。
まあ、そういうこともあって一生懸命やりました。それからまわりの方が、本当にいろいろ気にか
けてくれました。

子どもの反抗期も楽しんで。どれも成長の過程。

娘は、今たぶん反抗期だと思います。「今日学校でどうだった？」と聞いても「別に。」とか言いま
す。子育てをする上で、子どもは小さい頃、絶対に泣きますよね。泣いたり、わがまま言ったり、
ごはんもちゃんと食べないし。どこかに行くときすぐ動き回ってしまったり。でも、そういうのも子ども
の成長の過程だと思っています。家の中で、本当に何が不満で泣くのかわからないけれど、泣いてい
る姿を見て、それもやはり自分自身はかわいいなと思えました。たぶん、泣く姿って親にしか見せない。
よそのうちの親御さんの前では、そういったこともないのかなと思います。ある程度大きくなっ
ても、親の前ではいろいろわがまま言ったり、泣いたりするけれども、それはそれで親の前でしか見
せない姿だから、私だからそういうことをやってくれるのだろうと、ものすごく甘やかして育ててし
まっているところがあります（笑）

娘が小さい頃は、私が学校に行くときすごく喜んで一緒に遊んだりしましたが、最近学校に行ったら
「パパ、来ないでよ。」と言われてしまいました。それでも、わざと行って娘の友達にいろいろ笑われ
たりしています。娘もそれはそれで嬉しいのではないかと考えていますが、まあ、反抗期というかそ
ういうものかなと。私自身は、そういった反抗期も楽しんでいるというか、子どもの成長には、なく
てはならないものだと思っています。「なんだ、親に対してその態度は。」と、そういったことに怒る
親御さんもいますが、それはそれで、そのご家庭の育て方というものもあるでしょうから。まあ、うち
はうちで、毎日笑って過ごしたいなという自分自身の考えがあったりするので。

子育ては甘々、少し後悔（笑）

今、困っていることというのは、あまりありません。妻が亡くなってからは、会社の事務所を引き
払って自宅で仕事をしています。現場関係の仕事なので、普段は現場に行っています。

現場に行っても18時には帰ってきて夕飯の支度をします。朝は早くて6時半ぐらいに家を出ます。娘の朝ごはんはおにぎりを作ったり、ごはんを炊いておいて自分で食べてもらったりしています。娘が小さい頃から家事は私が全部やってきているので、なかなか娘が自分ではできません。でも、この前いきなり味噌汁を作ってくれました。じゃがいもの皮をむいて、包丁で切って、こういうこともできるようになったんだなと思いました。ただ、子育てについては甘々というか、参考になるかわかりませんが、子どもには、負担をかけたくないと思ってやってきましたが、でもやはり子ども一人でできるようにならないといけないというところで、今は少し後悔しているところもあります。もう少しやらせておけば良かったかなと。

子どもには、毎日笑って生活してもらいたい。

本当に苦労というか、性格があまり悩まないタイプなのです。自分の中で何かあっても、いろいろなことがあるけれども、それに悩まないというか、自分の中で消化をしてしまいます。あまり引きずりません。そうしないと子どもに勘付かれてしまうからです。子どもの前では笑っていたいから。自分が悩んでいると子どもに対しても、ものすごくつっけんどんになってしまう。「今ちょっと忙しいからダメ。」とか「考えごとしているから、あとにして。」とか言ってしまう。どんなに辛いこと、悲しいことがあっても子どもの前では、そういう姿を見せないで日々を過ごしたいという思いがあったので。一つのことに悩んだり、子育てを大変だ、大変だと思ってやっていると、本当に大変になってしまうので。先ほども言いましたが、子どもが泣いている姿を見ても成長の過程なんだと、そう思えない方も多いかもしれませんが、そういうふうに思っています。

子どもと一緒に地域で楽しんで生活を送っています。もし今、妻が健在で普通に生活していたら、たぶん私自身こういった地域での活動もなく、日々忙しく働いているお父さんと同じような生活だったのかなというのは思っています。逆に妻に感謝しています。そう思います。

本当に日々、無我夢中でしたから、大変というよりは、やるしかないという感じでした。立ち止まって考えるヒマもなく日々過ごさないと、子どもは毎日ごはんも食べれば保育園も行きます。

そこで親が立ち止まって泣いてばかりいてもしょうがないのです。なので、父子家庭でいる私が、「あまり父子家庭を思わせない。」とみんなから言われています。毎日、娘と楽しそうに生活しているから、そういうことを一切感じさせないと。娘には母親のいないリスクを感じさせないように育ててもらいたいと思っています。地域で私が明るく活動していれば、娘も友達と楽しく過ごしています。

子どもと手をつないだり、抱っこしたり、そういうコミュニケーションも、いつかはできなくなってしまっているので、できるうちはしています。成長とともになくなってきて少し寂しい気もしますが、義務教育もあと2年で終わってしまいます。その間は、本当に地域でいろいろやって、子どもと一緒に楽しめたらいいのかなと思っています。

今回は、子育てにおいて地域との関わり大切さを教えていただきました。時間がなく地域活動に参加できないという声も多く聞きますが、佐々木さん曰く「時間がないのではなく、時間は作るもの。」だそうです。また、佐々木さんから、どのような事情があっても子どもは親のことが大好きなので、子どもが施設に入らなくて済むように、できるだけ親もとで育てられるようなサポートをして欲しいという要望を伺いました。ひとり親家庭の方々がよりよく子育てできるような環境を整備したり、虐待にあっている子どもを児童養護施設に入れる前に、虐待してしまう親が上手く子育てできるような体制の確立を希望されていました。

佐々木さん、取材にご協力いただきありがとうございました。

実施しました

男女平等推進セミナー

市では、男女がお互いの生き方を尊重し合える社会の実現に向けて、男女平等推進セミナーを開催しています。今年も11月に地域振興プラザにおいて実施しました。

男女平等推進セミナーⅠ

「もう一度働きたいあなたのための～再就職準備講座～」

実施日時：平成25年11月8日(金) 10時から12時まで

講師：上田晶美氏（ハナマルキャリア総合研究所 代表）

結婚や出産を機に仕事を辞めた女性の再就職を応援する講座です。再就職に向けた準備と応募書類の書き方を紹介しました。

講演内容より

■ 履歴書用写真の取り方のポイント

就職活動中の女子大学生の間では、メイクつきの写真館で履歴書用の写真を撮るのがスタンダードになっています。主婦の皆さんも写真館で撮ればよいのですが、そんなに写真にコストがかけられないという方に、証明写真機（スピード写真機）で上手に写真を撮るためのポイントをご紹介します。

- ①何回も撮り直せるように空いているところを選ぶ。
- ②明るい表情で写真を撮るために笑顔の練習をしてから行く。
- ③フラッシュが強いので、化粧は普段より少し濃くして行く。
- ④設定があれば、「美肌効果」を選び、歯をみせて明るい笑顔で撮影する。



当日の参加者より

● 講師の朗らかさ、そして現況に対応した情報の豊富さに、ぐっとハートをつかまれた感じです。同じグループの人たちと少しお話ができたのもうれしかったです。今できることから、徐々に始めていこうという思いを新たにしました。

● 間違いだらけの方法で履歴書を書いていました。写真が笑顔で良いとは知りませんでした。又、自分の趣味や好きなことと仕事に関連づけて考えていなかったので、今後、もっと求職の幅が広がれそうです。

● 今後どう人生を方向づけて行くのか考えたいと思い参加させていただきました。短い時間の中で目の前をパッと開いていただく様な力強いお話で、自分に向きあえた事を感謝しております。やりたい事、そして家族との関係を今一度整理し、70才まで働ける仕事を探して行きたいと思えます。ありがとうございました。

● 子供が小さいのであらかじめいましたが、しっかり対策を立てれば良い就職ができることを知り元気ができました。

● 女性が仕事をする上で、そのまわりの家族も理解してもらえるように女性だけでなく、男性やその親世代に今の社会の現状を理解してもらえる講座も開いてもらえるとうれしいと思います。

● 再就職のためには、事前準備が大切ということがよく理解できました。

● 再就職をしたいと思っても、頭の整理がついてなかった自分に、その順序と、何をすべきかを道しるべを教えていただいて、とても参考になりました。今後、子供の成長と共に時間ができることも具体的に話していただいて大切なことに気づきました。

男女平等推進セミナーⅡ

「女性の活躍推進の時代へ～ポジティブ・アクション～」

実施日時：平成25年11月17日(日) 10時から12時まで

講師：宮越泰子氏(女性就業支援センター 専門員)

政治や職場、地域も含め社会全体における女性参画の必要性について、また、女性が活躍できる環境づくりについて紹介しました。

講演内容より

■ GGI (ジェンダー・ギャップ指数)

スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が算定。経済、教育、保健及び政治の各分野のデータから男女格差を測る指数で、日本は、政治・経済分野での格差が大きく、2013年の総合順位は、136カ国中105位。先進国の中では、ほぼ最下位(他には韓国が111位等)。

■ ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が保証されている社会を男女共同参画社会といいます。そういったものを実現するために係る男女間の格差を改善するため必要な範囲において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをポジティブ・アクションといいます。

国の政策として「2020年30%(2020年までに社会のあらゆる分野で指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%程度とする目標)」を進めています。指導的地位としては、国会議員、国家公務員の管理職、裁判官、弁護士、民間企業管理職、大学教授、研究者、医者などが挙げられますが、現時点で30%に達しているのは国の審議会等委員や薬剤師などに限られ、他の分野での現状値はまだまだ低い状況にあります。

国会議員に占める女性の割合は7.9%(2012年12月現在)で、190カ国中160位です。上位の国の多くでは、クオータ制を取り入れています。クオータ制とは、ある一定の割合をどちらかの性に割り当てることで、ポジティブ・アクションの手法の一つです。政治だけでなく経済でもクオータ制を取り入れている国があります。女性が増えれば良いということではなく、男女が均等になるようにするものです。



当日の参加者より

●日本の社会では制度がととのって、それが社会や1人1人に浸透するのが遅く、長い間、同じ問題が取り上げられている気がします。早く対応できるような社会になれば良いなと思い、今日、この話を聞いた自分から、何か小さいことでも取り組めれば良いなと思います。またWLBで、「長時間労働＝仕事ができる人ではない」というのを自分の意識の中にとどめ、周りにも教えてあげて、皆が自分の時間を作って、豊かな人生を送れるようになればいいなと思います。

●日本の女性の労働参加や管理職の人数等、おかれている現状が具体的な数字を元によくわかりました。そしてポジティブ・アクションの必要性や今後の課題等、深く考えさせられました。WLBについては、自分自身でどんな生き方をしたいか主体的に考えることが大切であるという点に納得できました。

●女性をめぐる歴史・状況が全体的に復習できました。ありがとうございました。現代直面する課題はやはり自分たちで動いて解決するしかないですね。ただ、衣食足りて…というように、ここまで稼げない仕事、使い捨て雇用ばかりになると、ライフ・ケアについての行為は当然のことなのに「ゆとりある人のもの」になってしまわないか心配です。

●社会経済環境の変化の中で、女性も大切な社会の担い手となっていかなければならない。どのような制度の構築が、女性に魅力を感じさせるのか、皆で考えていく必要がある。

●私自身は長い間働くことができましたが、いろいろな条件と制度に守られていたと感じました。今後の課題は介護も含めた制度の充実ということです。ポジティブ・アクションも非常に大切と感じました。なかなか、ないセミナーでよかったと思います。

ご利用下さい。男女平等推進センター（地域振興プラザ1階）

施設案内

開館時間は午前9時から午後10時。
休館日は第2火曜日と年末年始です。

※施設の詳細については、協働推進課へお問い合わせください。

打ち合わせコーナー

10名程度の話し合いに
利用できます。

キッズルーム

活動時の一時保育や
授乳にも利用できます。

印刷室

印刷機、コピー機、拡大機、
紙折機があります。（有料）

情報資料コーナー

情報検索用のインターネットパソコンの
利用や、書籍・行政資料・啓発DVDなど
の閲覧及び貸出しができます。
（貸出しは2冊を2週間まで）

相談室（いなぎ女性の悩み相談）

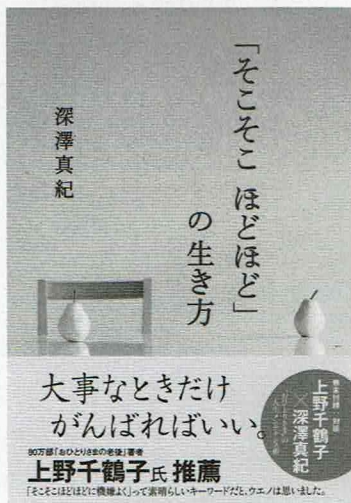
さまざまな悩みについて専門の相談員が
親身になって対応します。
（男性も水曜日は相談可）
◆毎月第1・3水曜日、第4土曜日（要予約）

お薦め図書のご紹介

深澤 真紀氏の2冊。コラムニストで企画会社タクト・プランニング代表取締役の深澤氏は日経ビジネスオンラインで「草食男子」や「肉食女子」を命名。フジテレビ系列「とくダネ!」のコメンテーター。今年3月2日開催の「女と男のフォーラムいなぎ2014」にご登壇いただきます。

「そこそこ ほどほど」の生き方

「ポジティブ」に「自分探し」をして「よりよく生きる」のもいいけれど、がんばりすぎて疲れることはありませんか? 「変わる」より、自分が持っている長所を知ることが大切。「そこそこほどほど」に自分をすり減らさず、淡々と「メンテナンスする」という考え方で、仕事も人間関係も少しラクに。



ダメをみかく“女子”の呪いを解く方法

最初の会社をパワハラで退社した芥川賞作家と、150社以上就職・転職活動した経験をもつコラムニストが、世間知らず・不器用・KYなままでも、なんとか社会で生き延びていくための技術を語り尽くす。世の中をすいすい渡っていけないことに悩む、すべての女性に捧ぐ。



それいゆ Vol.25

平成26年2月発行

編集発行／稲城市企画部協働推進課女性青少年係
稲城市東長沼2111
電話 042-378-2111

誌名の『それいゆ』は、雑誌「青鞥」の創刊の辞として有名な「元始、女性は太陽であった」の太陽の意味です。やさしい響きのフランス語をひらがなに置き換えました。市民からの公募で命名された愛称です。『それいゆ』の発行は男女平等推進いなぎプランに基づく事業です。